

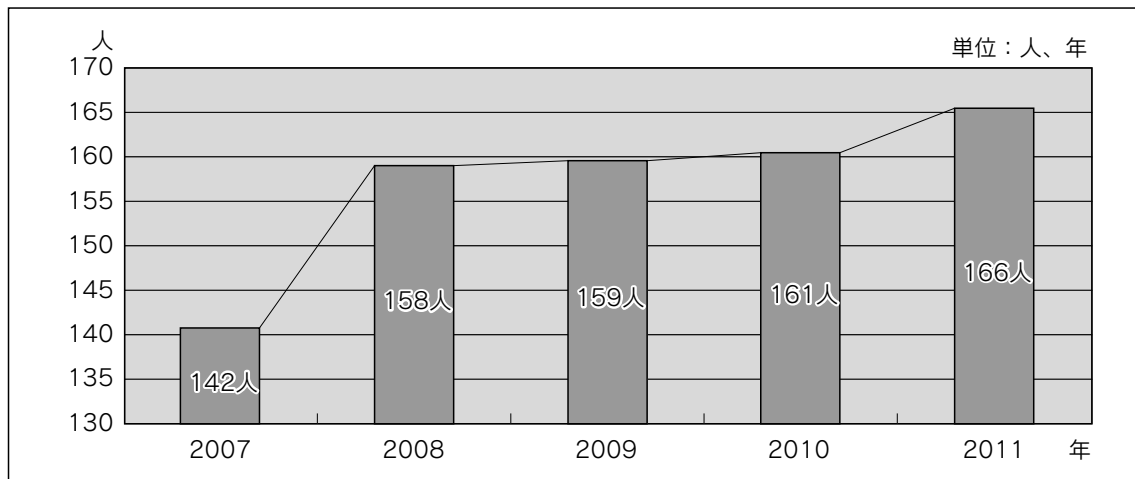
第4章 自然と人が創る活力ある産業のまちづくり

第1節 農業の振興

【現状と課題】

本町の農業は、長年稲作を中心に野菜や畜産、果樹などとの複合経営が主体でしたが、この間の機械化や米の生産調整など時代の変遷で、厳しい経営環境が続いています。また、就農者の高齢化、担い手不足、新規就農者の減少等、農業労働力の不足が急速に進んでおり、認定農業者等戸別経営体の育成とあわせて、作業受託組織や農業法人など組織経営体の育成と支援が急がれています。

・認定農業者数推移



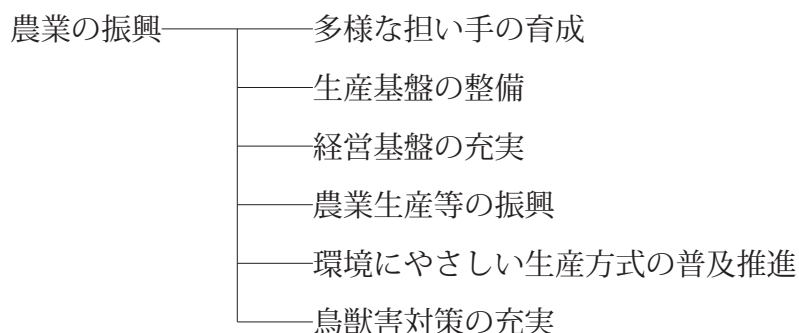
資料：町農林振興課調べ

農業は食料の安定供給や環境保全、地域社会の維持などの重要な役割を担っています。将来にわたって農家が誇りを持って生活できる農村の実現を目指すためには、付加価値の高い農産物の生産を図るなど、「作ったものを売ってもらう」農業から「作ったものを売り込む」戦略的な農業への意識転換が必要となっています。また、稲や畑作物の被害が年々拡大している鳥獣被害対策についても対策強化が必要となっています。

【基本方針】

農業振興においては、高い生産力と安定した経営体制が必要なため、生産基盤の整備と農用地の流動化を推進し、中核農家、農業後継者などの担い手の育成を図ります。また、急激に変化する農作物の需要動向を調査し、高付加価値化と販売戦略の強化を推進します。

【施策の体系】



【施策の内容】

項目	施策の概要	前期計画での実績
多様な担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者、女性農業者など、次世代を担う農業者の育成・確保を図ります。 ○認定農業者等を育成し、効率的かつ安定的な経営体への移行を図ります。 ○大規模経営を志向する農業者や組織的経営体については、法人化を支援します。 ○認定農業者等の担い手が不足する地域においては、集落が一体となって農業生産活動を行う集落営農の組織化や法人化を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担い手アクションサポート事業 ○フロンティア農業者研修事業 ○担い手育成応援事業
生産基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○農業経営安定化のため、農業水利施設や圃場などの新たな整備や更新事業を計画的に推進します。 ○水利・農地等の適正管理や農業用施設の長寿命化の取り組みを支援します。 ○農業生産条件が不利な地域における離農と耕作放棄地を解消するため、営農を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県営水沢ダム機器等更新事業 ○町単農業農村整備事業 ○中山間地域等直接支払交付金 ○農地・水環境保全向上対策事業
経営基盤の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○認定農業者や集落営農組織等の経営に必要な農業用機械や施設の整備を支援します。 ○農業経営基盤強化資金等の制度資金により金融支援を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業夢プラン応援事業 ○制度資金利子補給 ○農地地図情報システム

経営基盤の充実	○担い手の経営規模の拡大においては、農作業の効率化のため、農地の流動化などで集積を図ります。	
農業生産等の振興	<p>○稲作振興のため、地域ブランド米の確立を図ります。</p> <p>○施設園芸作物の生産振興を進めるほか、園芸作物価格補償制度等により経営の安定化を図ります。</p> <p>○地域特産物のそばや果樹、しいたけなど特色ある作物の生産振興を図ります。</p> <p>○産直活動の支援により、特産品開発や農村女性の起業及び地域の賑わい創出事業などを展開します。</p> <p>○グリーン・ツーリズムなどで観光施設との連携を図り、個性的な農業・農村体験やイベントの創出を図ります。</p>	<p>○園芸施設共済加入促進事業</p> <p>○園芸作物価格補償事業</p> <p>○椎茸価格補償事業</p> <p>○椎茸ホダ生産施設改修支援</p> <p>○大豆・そば乾燥調整施設更新等支援</p> <p>○町振興作物作付補助（転作）</p> <p>○産直施設改修事業</p>
環境にやさしい生産方式の普及推進	○地球温暖化防止や生態系の保全に効果の高い営農活動を支援するほか、食の安・安心の確保と農村環境の保全を推進します。	<p>○特別栽培農産物等生産振興補助金</p> <p>○菜の花プロジェクト支援事業</p>
鳥獣害対策の充実	○関係機関と連携し、猿害をはじめとする農作物への鳥獣害対策の充実を図ります。	<p>○猿害対策事業</p> <p>○鳥害対策事業</p>

第2節 林業の振興

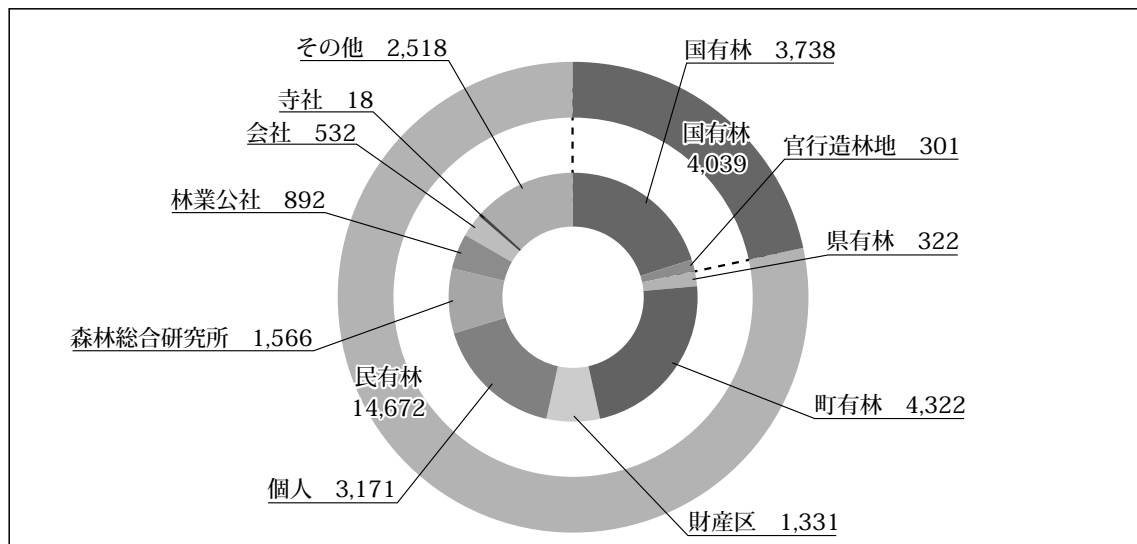
【現状と課題】

森林は木材供給や林産物の生産の場であると同時に、水源のかん養、災害の防止、自然環境の保全、町民の保養・休養地など多様な機能を有しており、地域社会の形成と町民生活の向上に深く関わっています。

本町の総面積の約8割は森林で占められており、林業を営む資源には恵まれているといえます。しかし、長期にわたる木材産業の低迷に加え、林業労働者の高齢化や後継者不足により森林管理が低下し木材生産活動が著しく減退するなど、林業を取り巻く情勢は厳しく、かつてのような町を代表する産業には至っていないのが現状です。

・ 森林面積

(単位：ha)

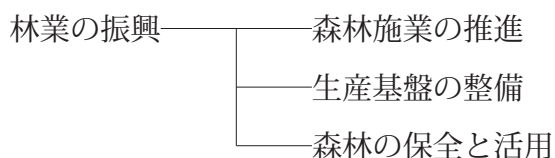


出典：「秋田県林業統計（平成22年度版）」

【基本方針】

間伐施業をこれまで以上に推進し、良材質の生産拡大を図ります。また、維持管理作業などの生産コストの低減を図るため林道や作業道の整備を推進するとともに、保安林などの多面的機能を利用して、本町の自然豊かな景観を守ります。

【施策の体系】



【施策の内容】

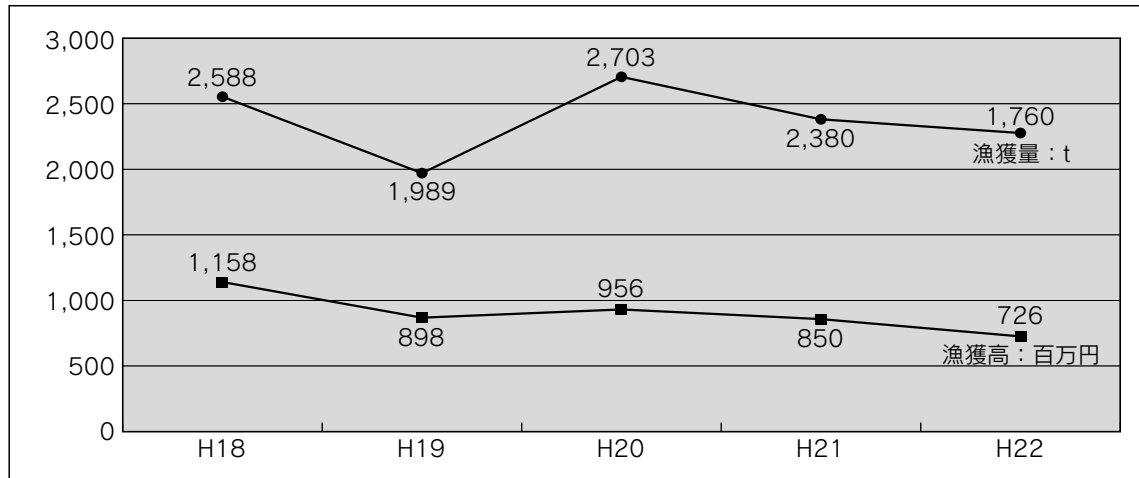
項 目	施 策 の 概 要	前期計画での実績
森林施業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を生かした林業の振興を進め、林業経営基盤の確立と担い手の育成を支援します。 ○造林や下刈、除・間伐などの保育を計画的に実施し、良質材や優良な原木の生産を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○森林整備地域活動支援事業
生産基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○優良材の生産を図り林業生産を高めるため、林道・作業道の整備を促進します。 ○治山・治水事業を推進するとともに、松くい虫防除対策については、被害の拡大を食い止めるため、防除作業を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高能率生産団地路網整備事業（真瀬沢） ○林道母谷山線開設事業 ○県営林道米代、北水沢、峰浜線事業負担金 ○作業道母谷山、産神台線改良 ○美しい森林づくり基盤整備事業（塙線） ○松くい虫防除事業
森林の保全と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○森林の機能が高度かつ持続的に発揮されるよう、多様な樹種により構成される混交林への誘導を推進するとともに、森林浴や登山、ハイキングなど、潤いのある緑豊かな森林空間を提供します。 ○分収林制度を維持し、森林の保育管理を支援するとともに、間伐による適切な密度管理を推進し、森林の健全化を確保します。 ○J-VERクレジットを販売し、その資金を活用して森林整備を進めて環境保全を図るとともに、生産されるバイオマス資源の有効活用を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○森林環境保全整備事業 ○生活環境保全林保育 ○クレジット販売量 J C B：290t-CO₂、 6,162千円 (@21,250円/t-CO₂) 秋田銀行：100t-CO₂、 1,050千円 (@10,500円/t-CO₂)

第3節 水産業の振興

【現状と課題】

本町は、県北最大の漁業基地として八森・岩館漁港を有し、古くから漁業の町として栄えてきました。しかし、漁船の近代化による漁獲能力の向上や生活排水などによる海洋環境の悪化などにより、水産資源が年々減少し、さらに魚価の低迷もあって漁家経営は厳しい状況が続いています。また、就漁者の減少や高齢化、後継者不足も顕著に現れています。

・水揚高（漁獲量、漁獲高）年度別推移



資料：秋田県北部漁業協同組合北部総括支所

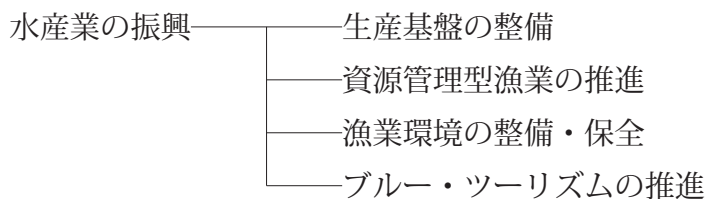
このため、新たな漁場の造成や獲る漁業から作り育てる漁業を基調とした資源管理型漁業に取り組んでいます。

内水面漁業については、真瀬川鮭鱒生産組合が解散したことから、今後のふ化事業に支障をきたしています。

【基本方針】

水産業の総合的な振興を図るため、生産基盤や漁業環境の整備に努めるとともに、資源管理型漁業を推進します。また、ブルー・ツーリズムを推進し、都市と漁村の交流の拡大を図ります。

【施策の体系】



【施策の内容】

項 目	施 策 の 概 要	前期計画での実績
生産基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で効率的な漁業基地をめざして、係留施設などの整備を促進し、漁港機能の強化を図ります。 ○ストックマネジメント事業を促進し、漁港機能の保全に努めます。 ○漁場の生産力を高めるため、人工魚礁や人工藻場を設置し、漁場の整備を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○岩館・八森漁港地域水産物供給基盤整備事業 ○並型魚礁設置事業
資源管理型漁業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○資源管理型漁業による水産資源の確保をめざし、「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換を促進します。 ○水産資源の増殖をめざし、ヒラメ、トラフグ、アワビ、サケ、アユなどの種苗放流事業を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培漁業定着化事業 ○海草類養殖事業 ○環境・生態系保全活動支援事業 ○種苗放流事業
漁業環境の整備・保全	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業協同組合の支援を継続し、経営の効率化、合理化を促し、魅力ある漁業への再生と後継者の確保を推進します。 ○魚食普及活動を推進するとともに、加工産品の開発や販路開拓のための活動を支援します。 ○漁業集落排水事業などを推進し、漁村の生活環境の向上と水質改善による天然藻場の拡大を図ります。また、沿岸環境・生態系保全活動を支援し、藻場の造成と機能向上を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漁業共済加入者掛金補助金 ○漁業経営安定資金貸付金 ○雇用創出活動支援事業補助金 ○漁業集落排水事業
ブルー・ツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○運営組織である岩館ブルー・ツーリズム協議会の活動を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漁火の館管理費

第4節 商工業の振興

【現状と課題】

本町の商店は、小規模な小売店や飲食店が集落に点在し、利便性の高い集積された商店街がないことから、能代市などの大型店舗に顧客が流出しており、商業の経営は厳しい状況になっています。

このため、既存商店の育成を図りながら、商店街の再編成や小売店の売り上げを高めるための対策が求められています。

・小規模店舗数および売上高 単位（件、百万円）

年 度	企 業 数	売 上
2008 年	51	885
2009 年	53	881
2010 年	53	831

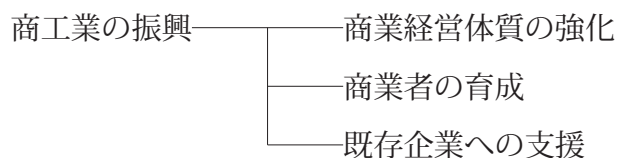
資料：白神八峰商工会

本町には工業部品製造業、建設業、縫製業、加工業等があります。長引く景気の低迷により、本町における工業事業所数、従業者数、製造品出荷額が減少傾向にあり、既存企業への支援を継続するなど、工業振興による安定的な雇用環境の整備を図る必要があります。

【基本方針】

消費者ニーズに対応した特色のある店舗の経営を期するとともに品ぞろえを工夫するなど、商業経営体質の強化を推進します。また、既存企業の経営安定に向けて融資制度等の支援を継続します。

【施策の体系】



【施策の内容】

項 目	施 策 の 概 要	前期計画での実績
商業経営 体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業の経営安定化施設整備等が円滑に推進されるよう、制度資金の充実を図ります。 ○地域消費者と商店との結びつきを深めるための調査研究、イベントの開催等ソフト事業の充実を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業融資斡旋資金 利子補給補助金 ○プレミアム付き商品券 発行事業
商 業 者 の 育 成	<ul style="list-style-type: none"> ○商業の振興を図るため、商工会との連携を強化し、事業者の人材育成及び担い手の確保、商業基盤の整備を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○白神八峰商工会補助金
既存企業 への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業の経営安定化、施設整備等が円滑に推進されるよう、制度資金の充実を図ります。 ○商工会や関係機関との連携を強め、企業間の異業種交流を促進し、相互の体質強化と組織の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業融資斡旋資金 利子補給補助金

第5節 新産業・新規事業への支援

【現状と課題】

本町は厳しい経済環境のもと、若年層をはじめとする雇用の確保や地場産業の振興などが課題となっており、次代をリードする新たな産業を創出していくことが求められています。

このため、地元企業の育成とともに、技術や知識集約型のベンチャー企業などの新たな企業の創出を推進する必要があります。

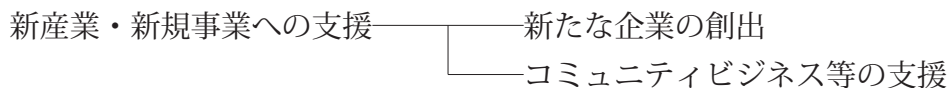
また、東日本大震災を契機に、企業のリスク分散のため、太平洋側から日本海側への工業移転の動きが見られることから、本町への工場誘致活動を積極的に行う必要があります。

【基本方針】

今後、成長すると思われる電子、情報、医療、健康福祉、環境、バイオマス関連産業分野や地域に密接に結びついたコミュニティビジネス分野等において、関係機関と連携し、事業主や起業者を総合的に支援します。

また、雇用の拡大と町内経済の活性化を図るため、太平洋側の優良企業の誘致活動を推進します。

【施策の体系】



【施策の内容】

項目	施策の概要	前期計画での実績
新たな企業の創出	<ul style="list-style-type: none">○新たな雇用の創出を図るため、助成事業等の活用により広域圏も視野に入れながら電子、情報、医療、健康福祉、環境、バイオマス関連産業分野の企業誘致を図ります。○太平洋側の優良企業の誘致活動を積極的に行います。○白神の活性水の製造など、地元の資源を活用した起業活動を支援します。	<ul style="list-style-type: none">○雇用創出活動支援事業
コミュニティビジネス等の支援	<ul style="list-style-type: none">○コミュニティビジネスやNPOなどの企業への支援による新たな産業振興と雇用機会の創出を図ります。	<ul style="list-style-type: none">○新山村振興農林漁業特別対策事業○雇用創出活動支援事業

第6節 観光の振興

【現状と課題】

本町は起伏に富んだ海岸線と世界自然遺産白神山地、そこを源として日本海に注ぐ清流など豊かな自然資源と、いさりび温泉ハタハタ館やあきた白神体験センター、御所の台ふれあいパーク、ぶなっこランド、ポンポコ山公園など大きな可能性のある観光レクリエーション施設を有する町です。しかし、地形的な特性や交通アクセスの不備などから、その地域資源を十分活用しきれていません。

観光客数は施設の充実に伴い、年間80万人を超えるまでに伸びてきていますが、宿泊客は伸び悩んでいます。

今後は、これまで以上に本町特有の自然、文化及び地域の人材を活用したグリーン・エコ・ブルー・ジオ・ヘルスツーリズムなど新たな観光形態に対応した個性的な観光の振興に努める必要があります。

・観光客入込数の推移

(単位：人)

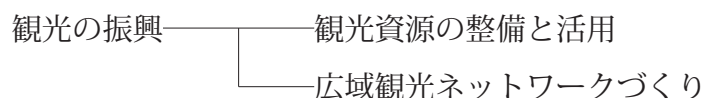
区 分	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
観光客入込客数	714,242	742,390	720,943	656,796	878,343	859,247

資料：町産業振興課調べ

【基本方針】

本町特有の自然、文化及び地域の人材を活用したグリーン・エコ・ブルー・ジオ・ヘルスツーリズムなど、新たな観光形態に対応した観光振興を推進します。また、周辺市町村や他の観光地と連携して、広域観光ネットワークの形成を図ります。

【施策の体系】



【施策の内容】

項目	施策の概要	前期計画での実績
観光資源の整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○自然との調和、環境保全に配慮した観光の振興を図ります。 ○各種ツーリズムを推進するため、八峰町白神ガイドの会や白神ネイチャー協会などの団体等を支援するとともに、ガイドやインストラクター養成講座などを実施し、人材の確保を進めます。 ○特色あるツーリズムを構築するため、規制緩和や権限移譲、各種の支援を国に要望します。 ○観光拠点施設であるハタハタ館のさらなる改修事業を実施するとともに、隣接するあきた白神体験活動センターとの連携を強化し、交流人口や宿泊客の増加を図ります。 ○ふるさと交流センターやポンポコ山公園、御所の台ふれあいパークの施設の充実を図るとともに、公園の特性を活かしたイベントの開催します。 ○あきた白神体験センターを中心に、自然や資源、人材を活かした体験観光の確立に努めます。 ○観光協会の活動を支援するとともに、民間観光業者との連携強化を図ります。 ○町内に存在する史跡観光資源の有効活用を図ります。 ○地域活性化を目的とするイベント実施団体等を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旅行商品・地場産品料理開発事業 ○体験型観光等に係る人材育成事業 ○観光PR用DVD制作事業 ○ハタハタ館大規模改修 ○ポンポコ山公園整備 ○緑地等管理中央センター改修 ○山村交流施設連絡道路改修 ○観光協会活動補助 ○五能線沿線連絡協議 ○悠久の森白神フェスティバル補助 ○ポンポコ山音楽祭補助 ○雄島花火大会補助
広域観光ネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○県や関係市町村、民間旅行者などと連携したネットワークで、通年型・滞在型観光PRを積極的に行います。 ○白神山地周辺市町村や五能線沿線市町村と連携し、ネットワークづくりや周遊ルートの開発などを推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルート101観光連絡協議会

第7節 地域ブランドの確立

【現状と課題】

経済活動がグローバル化する中で、地域特性を生かして付加価値の高い商品づくりに取り組み、地域ブランドを確立することで活路を見出そうとしている地方自治体が増えてきています。

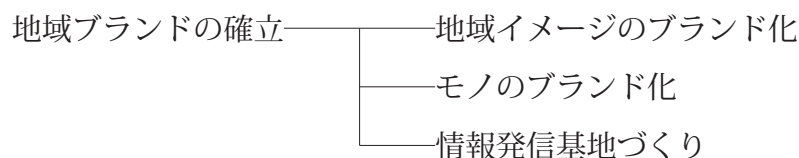
本町においては、ハタハタ、ソバ、シイタケ、峰浜梨など全国に誇れる物産品を有しているほか、近年は、白神山地のネームバリューを活用した商品の開発や販路の拡大なども進んできています。

今後は、地域全体のイメージアップを図り、特産品の販売、観光客の誘引、定住率上昇など、地域価値のアップを目的とした戦略的な地域ブランドの確立が求められています。

【基本方針】

地域全体のイメージアップを図るとともに、地域産品の価値を高めるために戦略的地域ブランドの確立を進めます。

【施策の体系】



【施策の内容】

項目	施策の概要	前期計画での実績
地域 イメージの ブランド化	○白神山地に代表される自然環境、日本海に沈む夕日、田園風景などの安らぎのある農山漁村空間等をアピールするとともに、訪れた人と住民との交流を通じて、町全体のイメージアップを図り、“八峰町まるごとブランド化”を進めます。	○特産品認証事業
モノの ブランド化	○ハタハタ、アワビ、ソバ、シイタケ、峰浜梨をはじめ全国的に誇れる特産品の一層の内容の充実を図るとともに、“白神”の知名度を活かして広く情報発信に努め、「八峰白神ブランド」の確立を図ります。	○新商品開発・生産販売支援事業 ○白神ブランド商品開発事業 ○町特産品加工技術習得人材育成事業 ○八峰白神の塩、八峰白神塩もろみを活用した特産品開発事業
情報発信 基地づくり	○農林水産分野におけるITの戦略的活用を図るため、団体・企業の情報化への取り組みを支援するとともに、さまざまな機会を利用して“旬”の情報提供に努め、情報発信基地づくりを推進します。	○雇用創出活動支援事業（販路開拓事業）